

廃止措置の終了の確認申請書

令和5年 11月 2日

原子力規制委員会 殿

住所 岩手県八幡平市瀬ノ沢56番地の3  
氏名 花輪鉦山株式会社  
代表清算人 池田 肇

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第57条の5第3項において準用する同法第12条の6第8項の規定により次のとおり廃止措置の終了の確認を申請します。

氏名又は名称及び事業所の住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名	花輪鉦山株式会社 岩手県八幡平市瀬ノ沢56番地の3 代表清算人 池田 肇
工場又は事業所の名称及び所在地	花輪鉦山株式会社 岩手県八幡平市瀬ノ沢56番地の3
使用施設等の解体の実施状況	別紙のとおり
核燃料物質の譲渡の実施状況	別紙のとおり
核燃料物質による汚染の除去の実施状況	別紙のとおり
核燃料物質等の廃棄の実施状況	別紙のとおり

## 1. 使用施設等の解体の実施状況

### (1) 解体の対象となる施設

花輪鉱山株式会社の全ての使用施設等は、位置、構造及び設備の移設等の措置はせずに原位置のまま J X 金属エコマネジメント株式会社が引き続き管理を担う（なお、使用施設等の所有権は、J X 金属エコマネジメント株式会社の親会社である J X 金属株式会社が従前より保持している）。J X 金属エコマネジメント株式会社は、核燃料物質の使用許可を取得し、再利用する予定であるため、解体撤去を行わない。そのため、解体の対象となる施設はない。また、使用施設等に設置されている設備についても、再利用するため、解体撤去を行わない。

J X 金属エコマネジメント株式会社は、使用施設等の位置、構造及び設備の移設等の措置はせずに原位置のまま管理を継続し、原子炉等規制法第 5 2 条第 1 項の規定に基づき令和 5 年 2 月 1 日付けで提出した核燃料物質使用許可申請書（令和 5 年 8 月 22 日付にて認可）において、管理区域及び周辺監視区域を同一区域として設定することから、放射線による障害の防止の措置は引き続き実施される。

### (2) 解体の方法

廃止措置対象施設は J X 金属エコマネジメント株式会社が再利用するため、解体撤去を行わない。また、廃止措置対象施設に設置されている設備も J X 金属エコマネジメント株式会社が再利用するため、解体撤去を行わない。

## 2. 核燃料物質の譲渡の実施状況

花輪鉱山株式会社を法人清算するため、親会社である J X 金属エコマネジメント株式会社へ全ての核燃料物質を含む敷地、施設等譲渡しを行った（添付資料 2）。

なお J X 金属エコマネジメント株式会社は 8 月 22 日付にて核燃料物質使用許可を取得済み。

本件に係る譲渡しは、使用施設等の位置、構造及び設備の移設等の措置は行わないため、核燃料物質の搬出及び輸送は実施していない。

## 3. 核燃料物質による汚染の除去の実施状況

花輪鉱山株式会社は、XXXXXXXXXX 238Pu 線源保管室において、密封線源の保管管理を実施しており、これまでに事故及びトラブルが発生したことはない。令和 5 年 10 月 12 日に汚染検査を実施し、添付書類 3 の通り測定結果は検出下限以下であり、当該施設における核燃料物質による汚染が無いことを確認した。

#### 4. 核燃料物質等の廃棄の実施状況

花輪鉦山株式会社が保有していた核燃料物質は廃止措置計画（令和5年2月1日付）及び添付資料2に示すとおり、JX金属エコマネジメント株式会社へ譲渡しが完了している。また、          管理区域は、引き続きJX金属エコマネジメント株式会社において管理区域とするため、汚染の除去は行わず、解体も行わないため、廃止措置期間中に発生する放射性廃棄物もない。

#### 5. 放射線管理記録の引き渡し

平成12年9月13日付け、12安（核規）第636号の核燃料物質の使用の変更許可を受けてから廃止措置計画認可申請時まで核燃料物質の保管管理のみを行っており、放射性廃棄物は所有しておらず、これまでの核燃料物質の保管管理において事故や汚染、その他のトラブルは発生していない。

また、過去、官側に報告した通り（添付資料4）、核燃料物質の使用等に関する規則の第2条の11第5項で記録が求められる放射線従事者はおらず、放射線管理記録は作成していないため、引き渡しはできない。

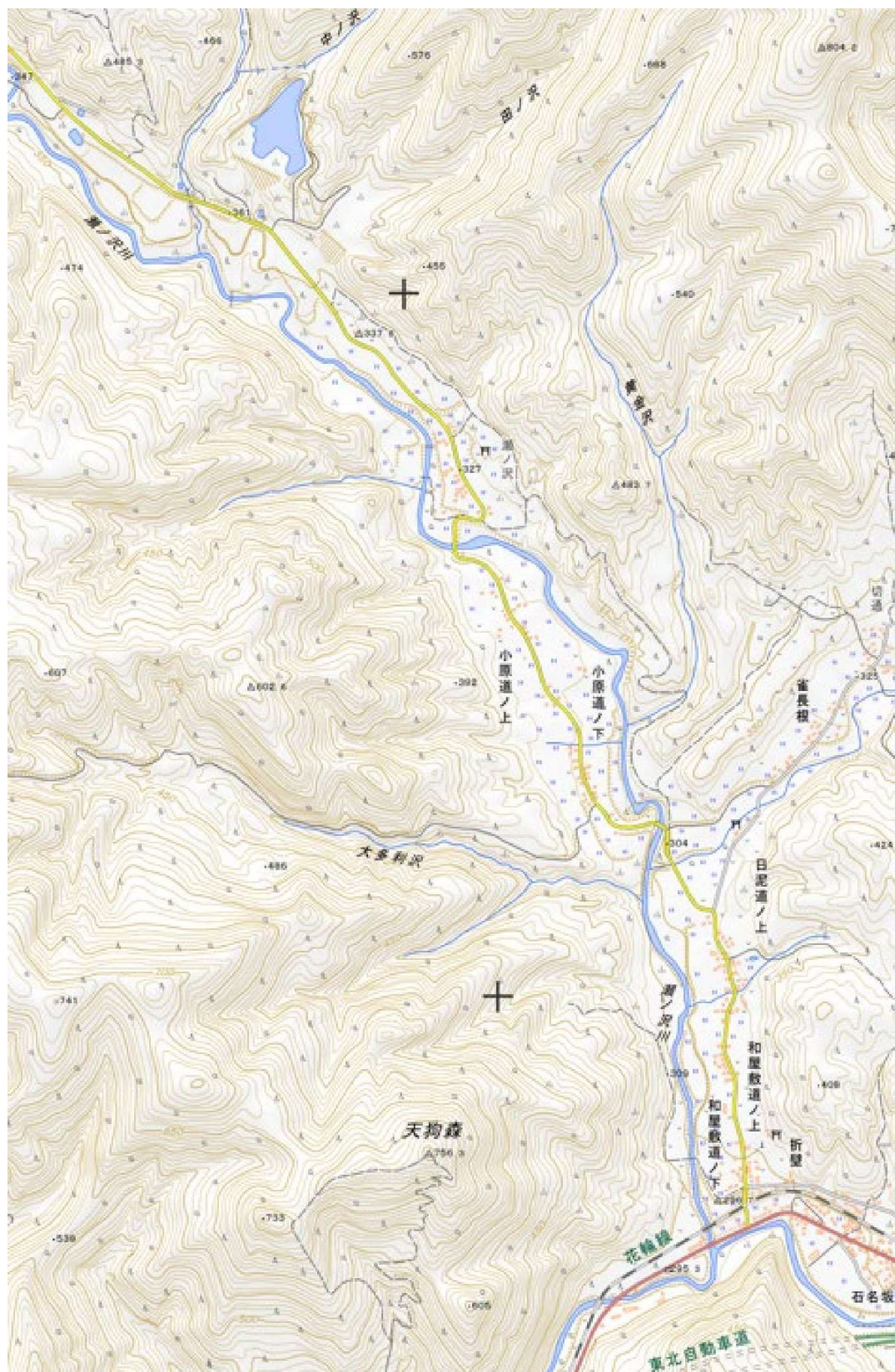
【添付資料】

1. 廃止措置対象施設の敷地に係る図面及び廃止措置に係る工事作業区域図
2. 核燃料物質受領書
3. Pu-238密封線源の汚染検査作業報告書
4. 放射線管理報告書の一例（平成7年度下期分）

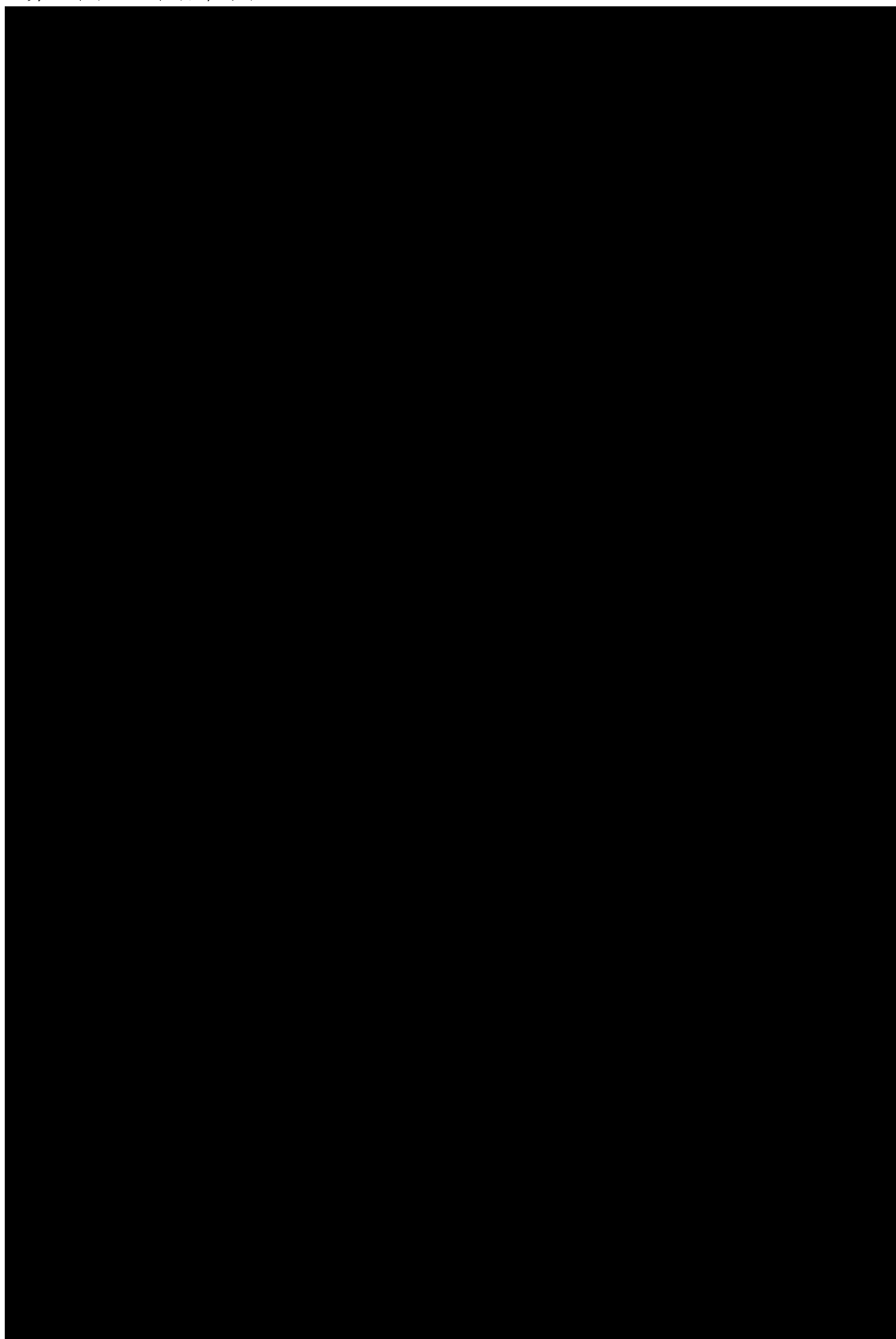
## 添付資料 1 廃止措置対象施設の敷地に係る図面及び廃止措置に係る工事作業区域図

近辺略図を第 1 図、建物配置図を第 2 図、建物内配置図を第 3 図に示す。廃止措置中の作業としては、敷地、施設等を J X 金属エコマネジメント株式会社が管理を開始するまでの間、核燃料物質を保管管理するため、第 3 図の管理区域及び周辺監視区域を工事作業区域とする。

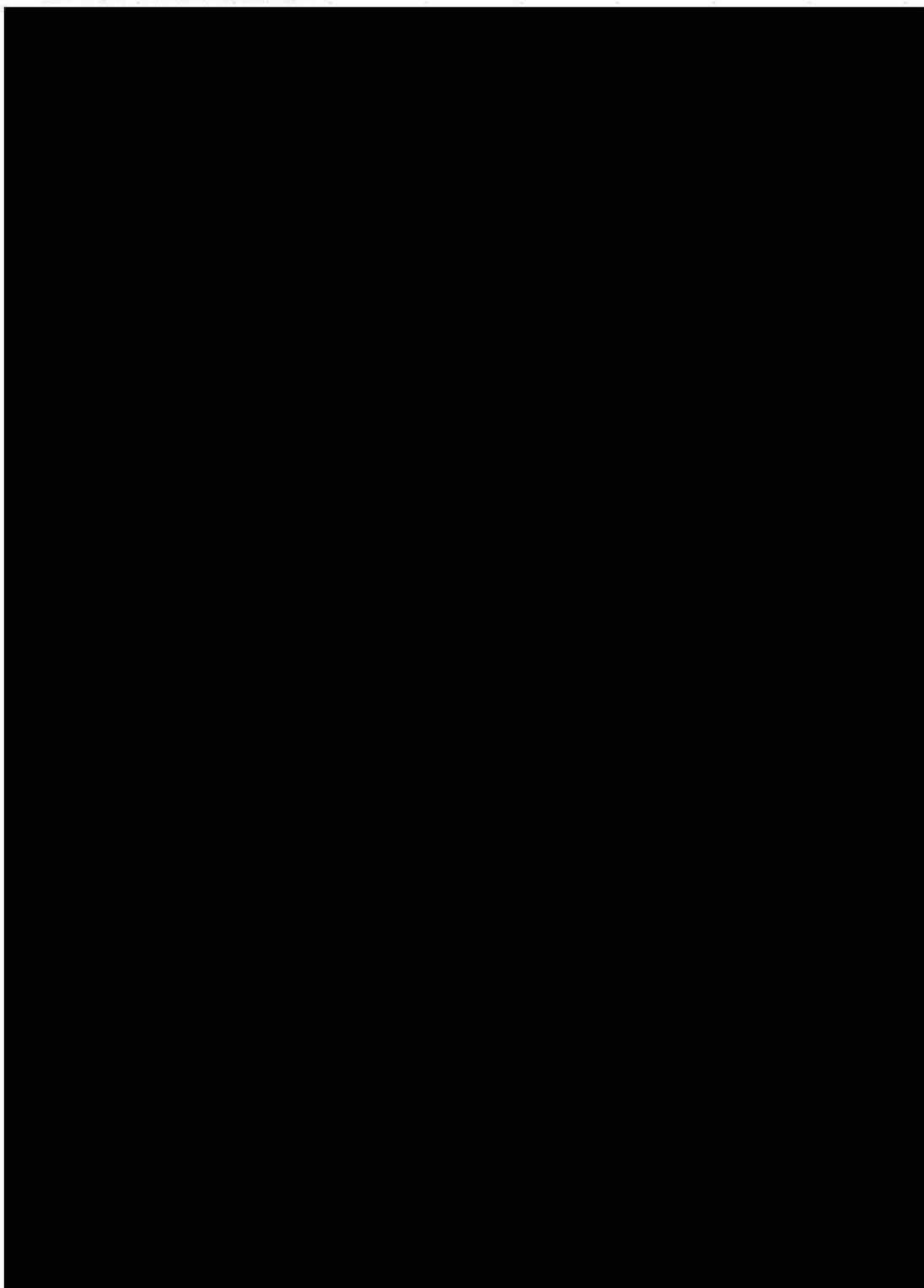
第1図 近辺略図



第 2 図 建物配置図



第3図 建物内配置図





## 受領書

令和5年 11月 2日

花輪鉱山株式会社  
代表清算人 池田 肇 殿

JX金属エコマネジメント株式会社  
代表取締役社長 池田 肇

令和5年 11月 2日付けで、以下の核燃料物質を譲り受けました。

### 記

種類	: プルトニウム238
化合物の名称及び化学式	: 二酸化プルトニウム $\text{PuO}_2$
数量	: 1.7mg (1.11GBq)

以上

令和5年10月16日

ご確認印		

J X 金属エコマネジメント株式会社  
八幡平事業所 殿

P u - 2 3 8 密封線源の汚染検査作業  
報 告 書

株式会社 千代田テクノル  
仙台営業所 TEL022-727-9571

照査	担当	作成

## 1. 作業件名

Pu-238密封線源の汚染検査作業

## 2. 目的

本作業は、Pu-238密封線源保管場所等の表面汚染密度を測定することにより、放射性同位元素による有意な汚染の有無を確認することを目的としました。

## 3. 作業年月日

令和 5 年 10 月 12 日

## 4. 作業場所

事業所名： JX金属エコマネジメント株式会社八幡平事業所  
住 所： 岩手県八幡平市瀬ノ沢56番地の3

## 5. 作業内容

- (1) 作業資機材の準備
- (2) Pu-238密封線源保管場所等の汚染検査  
＜汚染検査対象箇所＞  
[REDACTED]
- (3) 作業場所後片付け
- (4) 作業資機材の搬出

## 6. 汚染検査結果

測定の結果、全ての測定ポイントについて検出限界以下であったため、有意な汚染は確認されませんでした。

## 7. 総括

Pu-238密封線源保管場所等について、放射性同位元素による汚染がないことを確認しました。

## 8. 添付書類

- (1) 汚染検査の方法及び汚染の判断方法
- (2) 表面汚染密度測定結果・測定ポイント図
- (3) 使用測定器一覧表
- (4) 使用測定器の点検結果報告書・校正証明書
- (5) 作業日報
- (6) 作業写真

## 添付書類

### (1) 汚染検査の方法及び汚染の判断方法

# 汚染検査の方法及び汚染の判断方法 (直接測定法)

## 1. 汚染検査の方法

放射線測定器を用いて固定性表面汚染及び遊離性表面汚染の測定を行いました。測定距離については検出器を測定対象物表面から5mm程度として行いました。

## 2. 測定器の選定

測定器は1年以内に点検・校正されたものを使用しました。

## 3. 汚染の判断方法

検出限界計数率(3σ)により汚染の有無の判断を行いました。

正味計数率(計数率-自然計数率)の値が、検出限界計数率の値を超えている場合、有意な汚染があると判断しました。

## 4. 検出限界計数率(3σ)の算出方法

検出限界計数率 $N_d$ (cpm)は次の式によって算出しました。

$$N_d = \frac{K}{2} \left\{ \frac{K}{2 t_s} + \sqrt{\left( \frac{K}{2 t_s} \right)^2 + 2 N_b \left( \frac{1}{t_s} + \frac{1}{t_b} \right)} \right\}$$

- $N_d$  : 検出限界計数率 (cpm)
- $K$  : 標準偏差の何倍取るかの係数 ( $K=3$ )
- $t_s$  : 試料測定の際の時定数 (min)
- $t_b$  : 自然計数率測定の際の時定数 (min)
- $N_b$  : 自然計数率 (cpm)

## 5. 表面汚染密度の算出方法

表面汚染密度 $A$ (Bq/cm<sup>2</sup>)は次の式によって算出しました。

$$A = \frac{N - N_b}{60 \cdot S \cdot \eta}$$

- $A$  : 表面汚染密度 (Bq/cm<sup>2</sup>)
- $N$  : 試料計数率 (cpm)
- $N_b$  : 自然計数率 (cpm)
- $S$  : 測定器の有効窓面積 (cm<sup>2</sup>)
- $\eta$  : 測定器の計数効率

## 添付書類

### (2) 表面汚染密度測定結果・測定ポイント図

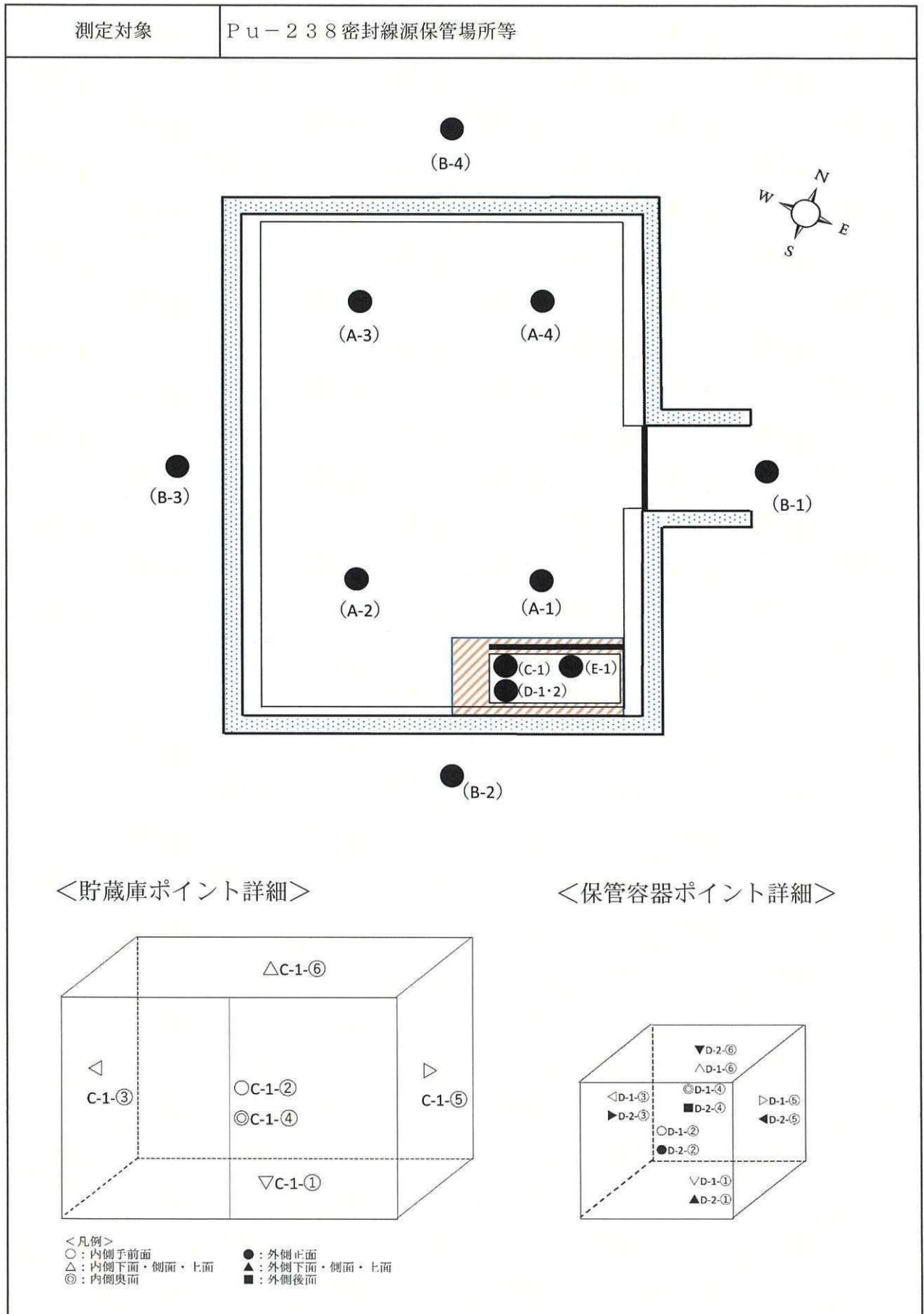
## 表面汚染密度測定結果 (直接測定法)

測定対象	Pu-238密封線源保管場所等		
測定年月日	令和5年10月12日	測定者	■
使用測定器	α/β線用シンチレーションサーベイメータ(TCS-1362)		
測定線種	α線	測定対象からの距離	3 mm程度
自然計数率	0.0 cpm	計数効率	10.8 %
時定数	10 sec	有効窓面積	19.6 cm <sup>2</sup>
検出限界計数率	27.0 cpm	検出限界表面汚染密度	2.1E-01 Bq/cm <sup>2</sup>

No.	計数率 (cpm)	正味計数率 (cpm)	表面汚染密度 (Bq/cm <sup>2</sup> )	測定箇所詳細
1	0.0	0.0	検出限界以下	A-1 ■ 床面
2	0.0	0.0	検出限界以下	A-2 ■ 床面
3	0.0	0.0	検出限界以下	A-3 ■ 床面
4	0.0	0.0	検出限界以下	A-4 ■ 床面
5	0.0	0.0	検出限界以下	B-1 ■ 外周 地面
6	0.0	0.0	検出限界以下	B-2 ■ 外周 地面
7	0.0	0.0	検出限界以下	B-3 ■ 外周 地面
8	0.0	0.0	検出限界以下	B-4 ■ 外周 地面
9	0.0	0.0	検出限界以下	C-1-① 貯蔵庫 内側 下面
10	0.0	0.0	検出限界以下	C-1-② 貯蔵庫 内側 手前面
11	0.0	0.0	検出限界以下	C-1-③ 貯蔵庫 内側 左側面
12	0.0	0.0	検出限界以下	C-1-④ 貯蔵庫 内側 奥面
13	0.0	0.0	検出限界以下	C-1-⑤ 貯蔵庫 内側 右側面
14	0.0	0.0	検出限界以下	C-1-⑥ 貯蔵庫 内側 上面
15	0.0	0.0	検出限界以下	D-1-① 保管容器 内側 下面
16	0.0	0.0	検出限界以下	D-1-② 保管容器 内側 手前面
17	0.0	0.0	検出限界以下	D-1-③ 保管容器 内側 左側面
18	0.0	0.0	検出限界以下	D-1-④ 保管容器 内側 奥面
19	0.0	0.0	検出限界以下	D-1-⑤ 保管容器 内側 右側面
20	0.0	0.0	検出限界以下	D-1-⑥ 保管容器 内側 上面
21	0.0	0.0	検出限界以下	D-2-① 保管容器 外側 下面
22	0.0	0.0	検出限界以下	D-2-② 保管容器 外側 正面
23	0.0	0.0	検出限界以下	D-2-③ 保管容器 外側 左側面
24	0.0	0.0	検出限界以下	D-2-④ 保管容器 外側 後面
25	0.0	0.0	検出限界以下	D-2-⑤ 保管容器 外側 右側面
26	0.0	0.0	検出限界以下	D-2-⑥ 保管容器 外側 上面
27	0.0	0.0	検出限界以下	E-1 線源容器
以下余白				

※表面汚染密度が0.01の場合1.0E-02と表示

# 測定ポイント図





## 添付書類

### (3) 使用測定器一覧表

## 使用測定器一覧表

No.	測定器名称	型式	製造番号	分類	実施年月日	結果	結果に伴う措置
1	$\alpha$ / $\beta$ 線用シンチレーションサーベイメータ	TCS-1362	GR00007222	点検 校正	令和5年5月8日 令和5年5月11日	異常なし 異常なし	特になし 特になし

【点検・校正の方法】

測定器名称	分類	方法	実施機関
$\alpha$ / $\beta$ 線用シンチレーションサーベイメータ	点検 校正	外観点検、構成点検、動作点検 J I S規格に準じた校正	株式会社千代田テクノル 株式会社千代田テクノル

## 添付書類

(4) 使用測定器の点検結果報告書・校正証明書



株式会社千代田テクノル 殿

## 点検結果報告書

2023年5月12日

茨城県東茨城郡大洗町成田町3681

株式会社 **千代田テクノル**

大洗研究所 放射線技術部

部長	点検担当者
	



点 検 年 月 日 2023年5月8日  
品 名  $\alpha/\beta$ 線用シンチレーションサーベイメータ  
形 式 TCS-1362  
製 造 者 日本レイテック株式会社  
数 量 1 台

### 判定基準

外 観 点 検 外観に有害な変形・破損等がないこと  
構 成 点 検 付帯品含め、過不足のないこと  
電 池 点 検 定格電圧以上あること  
動 作 点 検 各機能が正常に動作すること

### 点検結果

器物番号	外観	構成	電池	動作	備考
GR00007222(本体), GRX21F0107(検出器)	良	良	良	良	
(以下余白)					



## 校正証明書

依頼者 株式会社千代田テクノル

依頼品  $\alpha/\beta$ 線用シンチレーションサーベイメータ  
TCS-1362  
製造者：日本レイテック株式会社  
数量： 1台

校正項目 表面汚染密度

校正方法 JIS Z 4329:2004に準じた機器効率試験及びJIS Z 4504-1:2023に準じた測定法

校正場所 株式会社千代田テクノル 大洗研究所

参照標準 標準線源( $\alpha$ 線放出核種)  
 $^{241}\text{Am}$  (TP 873)  $\alpha$ 線表面放出率の不確かさ 2.1% 校正日:2021年6月4日

### トレーサビリティ体系

国家標準機関  
国立研究開発法人産業技術総合研究所

一次標準器  
(放射能絶対測定装置群)

校正機関  
公益社団法人日本アイソトープ協会

二次標準器  
proportional counter

校正機関  
株式会社千代田テクノル 大洗研究所

標準線源

ユーザ

依頼品

ご依頼品の校正は、国家標準にトレースされた上記参照標準を基準とし、当所の校正手順に従い実施しました。校正結果は次頁以降の通りであることを証明します。

発行日 2023年5月12日

茨城県東茨城郡大洗町成田町3681

株式会社 **千代田テクノル**

大洗研究所長 新田 浩



器物番号 GR00007222(本体), GRX21F0107(検出器)

## 校正条件

校正日 2023年5月11日  
距離 線源と検出器表面間: 3 mm (JIS Z 4504-1:2023)  
自然計数率 0.2  $\text{min}^{-1}$   
大気条件 気 温: 15~35  $^{\circ}\text{C}$   
相対湿度: ~85 %  
気 圧: 860~1060 hPa

特記事項 ・校正証明書の製造者欄は、製造者または現事業継承先を記載しています

## 校正結果

放出核種 ( $\alpha$ 線)	表面放出率 ( $\text{s}^{-1}\cdot\text{cm}^{-2}$ )	正味計数 (PT:1 min)	機器効率	換算係数 ( $\text{Bq}\cdot\text{cm}^{-2}/\text{min}^{-1}$ )
$^{241}\text{Am}$	9.11	23599	0.43	0.0015



## 注 記

(1) 校正は、JIS Z 4334:2019で推奨されている<sup>241</sup>Amを用い、直接測定法における表面汚染密度への換算係数を算出。

(2) 機器効率 $\epsilon_i$ は、次式より算出(JIS Z 4329:2004)。

$$\epsilon_i = \frac{N}{\phi A}$$

$\epsilon_i$  : 機器効率  
 $N$  : 計数值 [正味計数率 ( $s^{-1}$ )]  
 $\phi$  : 表面放出率 ( $s^{-1} \cdot cm^{-2}$ )  
 $A$  : 検出器の入射窓面積 100  $cm^2$  (製造者取扱説明書より)

(3) 表面汚染密度を求める換算係数は、次式より算出(JIS Z 4504:2008及びJIS Z 4504-1:2023<sup>※</sup>)。

$$k = \frac{1}{\epsilon_i A P t}$$

$k$  : 換算係数  
 $\epsilon_i$  : 機器効率  
 $A$  : 検出器の入射窓面積  
 $P$  : 線源効率 0.25 [JIS Z 4504-3:2023 附属書Eより]  
 $t$  : 測定器の表示単位 (分の場合 60 s、秒の場合 1 s)

※ JIS Z 4504-1:2023では、JIS Z 4504:2008で定められていた「 $k$  : 換算係数」を「 $C(A)$  : 放射能校正定数」に変更し、測定器の指示時間の単位を「秒」としている。但し、本書では被校正器の設定表示単位に合わせて、従来の換算係数として報告する。

(以下余白)





## 校正証明書

依頼者 株式会社千代田テクノル

依頼品  $\alpha/\beta$ 線用シンチレーションサーベイメータ  
TCS-1362  
製造者：日本レイテック株式会社  
数量： 1台

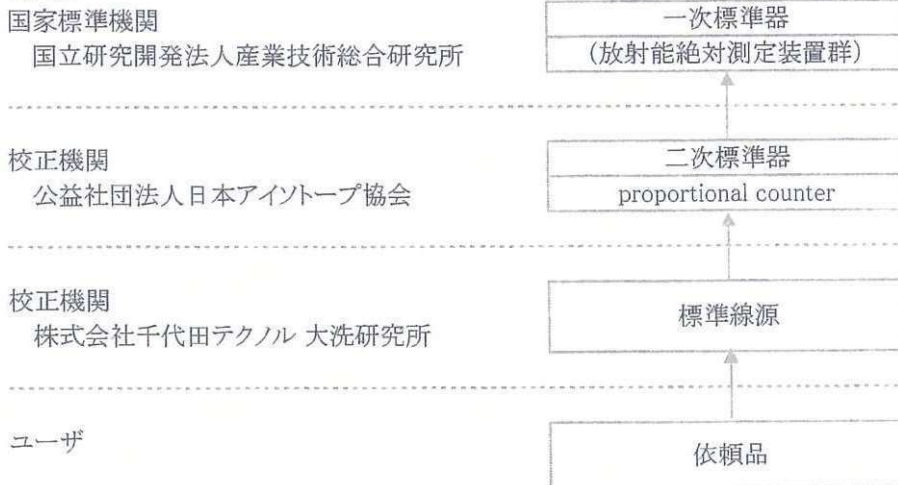
校正項目 表面汚染密度

校正方法 JIS Z 4329:2004に準じた機器効率試験及びJIS Z 4504-1:2023に準じた測定法

校正場所 株式会社千代田テクノル 大洗研究所

参照標準 標準線源( $\beta$ 線放出核種)  
 $^{36}\text{Cl}$  (AN-9456)  $\beta$ 線表面放出率の不確かさ 2.1% 校正日:2021年11月2日  
 $^{60}\text{Co}$  (AN-9455)  $\beta$ 線表面放出率の不確かさ 2.1% 校正日:2021年11月2日

### トレーサビリティ体系



ご依頼品の校正は、国家標準にトレースされた上記参照標準を基準とし、当所の校正手順に従い実施しました。校正結果は次頁以降の通りであることを証明します。

発行日 2023年5月12日

茨城県東茨城郡大洗町成田町3681

株式会社 **千代田テクノル**

大洗研究所長 新田 浩



器物番号 GR00007222(本体), GRX21F0107(検出器)

## 校正条件

校正日 2023年5月11日  
距離 線源と検出器表面間: 3 mm (JIS Z 4504-1:2023)  
自然計数率 213.2  $\text{min}^{-1}$   
大気条件 気 温: 15~35  $^{\circ}\text{C}$   
相対湿度: ~85 %  
気 圧: 860~1060 hPa

特記事項 ・校正証明書の製造者欄は、製造者または現事業継承先を記載しています

## 校正結果

放出核種 ( $\beta$ 線)	表面放出率 ( $\text{s}^{-1}\cdot\text{cm}^{-2}$ )	正味計数 (PT:1 min)	機器効率	換算係数 ( $\text{Bq}\cdot\text{cm}^{-2}/\text{min}^{-1}$ )
$^{36}\text{Cl}$	14.0	36016	0.43	0.00078



## 注 記

(1) 校正は、JIS Z 4334:2019で推奨されている<sup>36</sup>Clを用い、直接測定法における表面汚染密度への換算係数を算出。

<sup>60</sup>Coについては、 $\gamma$ 線による影響を考慮し、機器効率のみ算出。

(2) 機器効率は、次式より算出(JIS Z 4329:2004)。

$$\varepsilon_i = \frac{N}{\phi A}$$

$\varepsilon_i$ : 機器効率  
 $N$ : 計数值 [正味計数率 ( $s^{-1}$ )]  
 $\phi$ : 表面放出率 ( $s^{-1} \cdot cm^{-2}$ )  
 $A$ : 検出器の入射窓面積 100  $cm^2$  (製造者取扱説明書より)

(3) 表面汚染密度を求める換算係数は、次式より算出(JIS Z 4504:2008及びJIS Z 4504-1:2023<sup>※</sup>)。

$$k = \frac{1}{\varepsilon_i A P t}$$

$k$ : 換算係数  
 $\varepsilon_i$ : 機器効率  
 $A$ : 検出器の入射窓面積  
 $P$ : 線源効率 0.5 [JIS Z 4504-3:2023 附属書Eより]  
 $t$ : 測定器の表示単位(分の場合 60 s、秒の場合 1 s)

※ JIS Z 4504-1:2023では、JIS Z 4504:2008で定められていた「 $k$ : 換算係数」を「 $C(A)$ : 放射能校正定数」に変更し、測定器の指示時間の単位を「秒」としている。但し、本書では被校正器の設定表示単位に合わせて、従来の換算係数として報告する。

(以下余白)

添付書類

(5) 作業日報

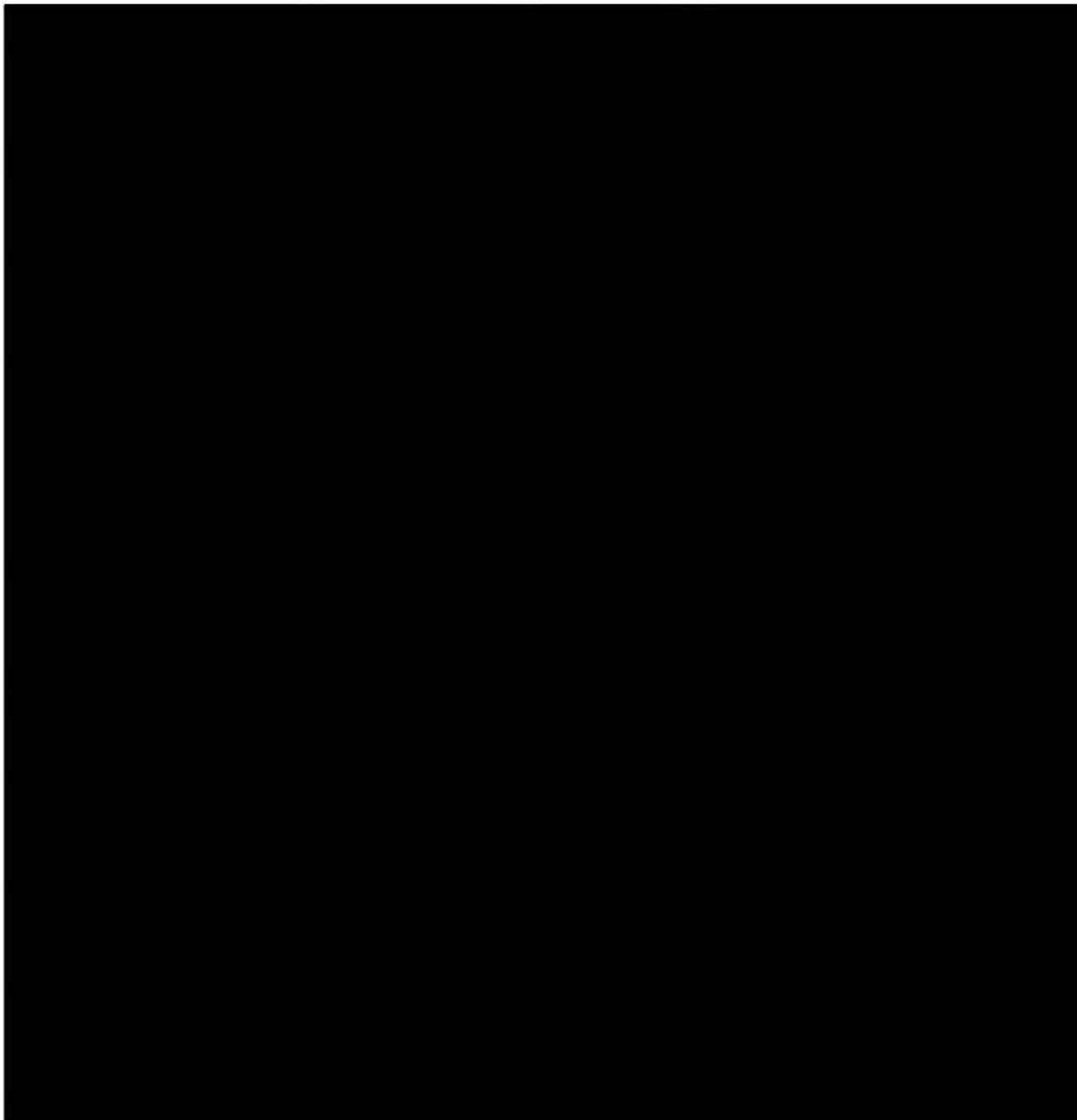
# 作業日報

株式会社 千代田テクノ

施設名	JX金属エコマネジメント株式会社八幡平事業所							
作業件名	Pu-238密封線源の汚染検査作業							
作業年月日	令和5年10月12日							
担当者	JX金属エコマネジメント株式会社							
作業責任者								
作業区分	<input type="checkbox"/> 設備・施設点検	<input type="checkbox"/> フィルタ交換	<input type="checkbox"/> 貯留槽清掃	<input type="checkbox"/> 床清掃				
	<input checked="" type="checkbox"/> 汚染検査・除染	<input type="checkbox"/> 補修作業	<input type="checkbox"/> 撤去作業	<input type="checkbox"/> 線量当量測定				
	<input type="checkbox"/> モニタ点検	<input type="checkbox"/> 交換作業	<input type="checkbox"/> その他					
作業場所	書庫							
放射線区域区分	<input checked="" type="checkbox"/> 放射線管理区域		<input type="checkbox"/> 非放射線管理区域					
作業内容	<p>1. 作業資機材の準備</p> <p>2. Pu-238密封線源保管場所等の汚染検査</p> <p>3. 作業場所後片付け</p> <p>4. 作業資機材の搬出</p>							
保護具着用状態	身体 <input type="checkbox"/> タイベック <input type="checkbox"/> カバーオール <input type="checkbox"/> アノラック <input checked="" type="checkbox"/> 作業着 <input type="checkbox"/> 実験着 <input type="checkbox"/> 安全帯	頭部 <input type="checkbox"/> 綿帽子 <input type="checkbox"/> ヘルメット	手 <input checked="" type="checkbox"/> 綿手袋 <input type="checkbox"/> ゴム手袋 <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> 皮手袋 <input type="checkbox"/> 腕カバー	足 <input type="checkbox"/> 軍足 <input checked="" type="checkbox"/> 安全靴 <input type="checkbox"/> ゴム長靴 <input type="checkbox"/> R I 靴 <input type="checkbox"/> 靴カバー	呼吸保護具 <input checked="" type="checkbox"/> 簡易マスク <input type="checkbox"/> 防塵マスク <input type="checkbox"/> 半面マスク <input type="checkbox"/> 全面マスク <input type="checkbox"/> 送気マスク			
	測定器	個人モニタ <input checked="" type="checkbox"/> ガラスバッジ <input checked="" type="checkbox"/> ポケット線量計	環境用モニタ <input type="checkbox"/> 電離箱式サーベイメータ <input type="checkbox"/> 中性子サーベイメータ <input type="checkbox"/> 酸素濃度計 <input type="checkbox"/> 硫化水素濃度計 <input type="checkbox"/> ダストサンプラー	<input type="checkbox"/> GMサーベイメータ <input type="checkbox"/> $\gamma$ 線用シンチレーションサーベイメータ <input checked="" type="checkbox"/> $\alpha/\beta$ 線用シンチレーションサーベイメータ <input type="checkbox"/> $^{125}\text{I}$ 線用シンチレーションサーベイメータ <input type="checkbox"/> $\alpha \cdot \beta$ 線用シンチレーションサーベイメータ				
個人記録	職種	氏名	作業時間(合計)	実効線量 ( $\mu\text{Sv}$ )		汚染検査結果		
				PD		GB		
				本日分	累積		手足	衣服
	放管兼責任者		10:00~11:00 (1.0h)	※0	0	*	OK	OK
備考	* : ガラスバッジ (GB) 装着者 ※ : ポケット線量計 (PD) 装着者							

添付書類

(6) 作業写真



貯蔵庫

汚染検査

(直接測定法)



保管容器（外側）

汚染検査

（直接測定法）



保管容器（内側）

汚染検査

（直接測定法）



線源容器

汚染検査

（直接測定法）



放射線管理報告書

半期経過後 45日以内の報告 (一部)

送付先

東京都千代田区霞が関二丁目二番1号

〒100 科学技術庁 核燃料規制課 へ送る

コピーしたものを

科学技術庁

核燃料規制課 申付

平成  
昭和

8年 4月 8日

岩手県二戸郡安代町字瀬ノ沢56番地の3

花輪 鉦山 株式会社

書類送付について (案内)

次の書類をお送りいたしますから、ご査収願います。

記

1. 平成7年下半 放射線管理報告書

以上

# 放射線管理報告書

(平成 7 年度 土 下 期)

平成 7 年 4 月 8 日

科学技術庁原子力安全局長 殿

会社等の名称 花輪鉱山株式会社

代表者の氏名 代表取締役 高田雄次 印

平成3年4月25日付け 3安局(核規)第12号の通達に基づき、次のとおり報告します。

規 制 区 分		核燃料使用者(法令に基づき報告義務がない者)
事業 者 等	名 称	花輪鉱山株式会社
	代表者の氏名	代表取締役 高田雄次
	住 所	岩手県二戸郡安代町字瀬ノ沢56番地の3
事等 業 所	名 称	花輪鉱山株式会社
	所 在 地	岩手県二戸郡安代町字瀬ノ沢56番地の3
事連 務格 上先 の	連絡員の氏名	[REDACTED]
	連絡員の所属	[REDACTED]
	電 話 番 号	[REDACTED]

1. 放射線業務従事者の1年間の実効線量当量 ( 7 年度)

実効線量当量 (mSv)	5以下 (人)	5を超え15以下 (人)	15を超え25以下		25を超え50以下 (人)	50を超えるもの (人)	計 (人)
			15を超え20以下 (人)	20を超え25以下 (人)			
自社員							
他社員							
計							
測定方法	外部被ばく						
	内部被ばく						

	総線量当量 (人mSv)	平均線量当量 (mSv)	最大線量当量 (mSv)
自社員			
他社員			
計			_____

[該当なし]

2. 女子の放射線業務従事者の腹部の組織線量当量 (H7年10月～H8年3月)

腹部の組織線量当量 (mSv)		1.3以下 (人)	1.3を超え4以下 (人)	4を超え13以下 (人)	13を超えるもの (人)	合計 (人)	総線量当量 (人・mSv)	平均線量当量 (mSv)	最大線量当量 (mSv)
前半の 3月間	自社員								
	他社員								
	計								—
後半の 3月間	自社員								
	他社員								
	計								—

(該当なし)

3. 線量当量限度を超え、又は超えるおそれのある被ばくをした者の詳細。

氏名	
年齢	
性別	
所属	
線量区分	
線量当量 (mSv)	
測定期間	年 月 日 ~ 年 月 日
健康診断	実施年月日
	診断結果
処置等	

[該当なし]